

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
今出川北キャンパス新築

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築 (簡易版) 2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート 実施設計段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分	住居・宿泊部分	全体	
		評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q 建築物の環境品質					3.9
Q1 室内環境					3.7
1 音環境		3.4	0.15	-	-
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-
2 設備騒音対策		-	-	-	-
1.2 遮音		3.6	0.40	-	-
1 開口部遮音性能		3.0	0.30	3.0	-
2 界壁遮音性能	界壁遮音性能の高い材料を選定している。	5.0	0.30	3.0	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	界床遮音性能の高い構成となっている。	4.0	0.20	3.0	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		2.0	0.20	3.0	-
1.3 吸音	床・天井部に吸音材を選定している。	4.0	0.20	3.0	-
2 温熱環境		3.2	0.35	-	-
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-
1 室温設定		3.0	0.60	3.0	-
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-
3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-
4 ゾーン別制御性		3.0	-	3.0	-
5 温度・湿度制御		-	-	-	-
6 個別制御		-	-	-	-
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-
8 監視システム		-	-	-	-
2.2 湿度制御		1.0	0.20	3.0	-
2.3 空調方式	床温度センサー、人感知センサー付の空調機の導入。	5.0	0.30	3.0	-
3 光・視環境		3.9	0.25	-	-
3.1 昼光利用		4.6	0.30	-	-
1 昼光率	U=2.80	5.0	0.60	3.0	-
2 方位別開口		3.0	-	3.0	-
3 昼光利用設備	光ダクトを利用している。	4.0	0.40	3.0	-
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-
1 照明器具のグレア		-	-	-	-
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-
3.3 照度		3.0	0.15	-	-
1 照度		3.0	1.00	3.0	-
2 照度均斉性		-	-	-	-
3.4 照明制御	細かい制御が可能。	5.0	0.25	3.0	-
4 空気質環境		4.3	0.25	-	-
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-
1 化学汚染物質	全面的にシックハウス対策に取り組んでいる。	5.0	1.00	3.0	-
2 アスベスト対策		-	-	-	-
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-
4 レジオネラ対策		-	-	-	-
4.2 換気		3.0	0.30	-	-
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-
4 給気計画		-	-	-	-
4.3 運用管理		4.5	0.20	-	-
1 CO ₂ の監視	空気質を適正に維持するための管理マニュアルが整備されていて	4.0	0.50	-	-
2 喫煙の制御	建物内は前面禁煙に指定されている。	5.0	0.50	-	-
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-
1 機能性		4.0	0.40	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.40	-	-
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-
3 バリアフリー計画	利用円滑化基準のみでなく、できる範囲で誘導基準も満たしてい	4.0	1.00	3.0	-
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	-	-
1 広さ感・景観		3.0	0.50	3.0	-
2 リフレッシュスペース		3.0	-	3.0	-
3 内装計画	コンセプトに沿った内装計画が徹底され、インテリアパースで検証	5.0	0.50	3.0	-
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計	内装・外装とも維持管理のしやすさに配慮している。	4.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保	管理倉庫やごみ集積計画等、維持管理のしやすさに配慮してい	4.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性		3.5	0.31	-	-
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-
1 耐震性		3.0	0.80	-	-
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		4.2	0.33	-	-
1 躯体材料の耐用年数	100年建築の実現を可能とする仕様としている。	5.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	30年以上	5.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	20年以上	5.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管はSUS、排水管は硬質塩化ビニル管、ライニングは鋼管を採用	4.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-

2.3 適切な更新				-	-	-	-
2.4 信頼性			3.8	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	電気設備における信頼性の取り組みを積極的に採用している。	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法	耐震クラスAを採用している。	4.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	多様な通信手段に対応可能、かつ地下への浸水防止措置をとつ	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.8	0.29	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	階高に余裕をみて設備の変更が容易になっている。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.155	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく設備配管の修繕、更新ができる。	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	全てEPS、HUB室は盤を設け、ケーブルルートにCRと点検口を設	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく更新できる。	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	バックアップ設備のためのスペースが計画的に確保されている。	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		歴史の継承、良好な景観を形成している。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	出土した文化財の展示、地域向けの講座を実施、地域と学生をつな	5.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	風の誘引装置、適宜木陰をつくるなど温熱環境に配慮している。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.6
1 建物の熱負荷抑制		PAL値=221.5	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	ソーラーパネルの設置	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=33.8	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			4.5	0.20	-	-	4.5
4.1	モニタリング	年間、用途別にエネルギー消費の内訳を把握する。	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用、維持、保全、年間エネルギー消費量の目標値が設定されて	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水	節水コマに加えて、省水型機器が取り付けられている。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用をしている。	4.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.7	0.63	-	-	3.7
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントを使用している。	4.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	エコマテリアル商品を使用している。	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	OAフロアを多用している。	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤を一切使用していない。	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材	ODP=0かつGWPが低い断熱材を使用している。	5.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮		地球温暖化抑制の配慮がされている。	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない。オール電化。	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場と駐車スペースを確保している。	4.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策チェックリストの過半を満たし、広告物照明は使っていな	5.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	